

学生ボランティア活動報告

英語サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 笹木 瑞希

森田地区児童館における英語教室

私たちは2017年8月7・10・17・18日に福井市森田地区の4つの児童館で、小学生を対象とした英語教室を開催しました。これから英語を学んでいく小学生が英語に苦手意識を持たずに楽しく学習するための工夫について考えるいい機会となりました。

内容は、先生と何度も話し合い、英語の動物の歌・かるた・フルーツバスケットを実施し、最後に英語の絵本の読み聞かせすることに決めました。かるたとフルーツバスケットは最初に歌った歌に出てきた動物を使い、まず歌を歌うことで単語を学習し、かるたで英語を聞き取る力をつけ、フルーツバスケットで学習した英語を話す・聞くことができるようなプログラムにしました。

英語教室当日は、小学生の子どもたちが元気に歌を歌い、楽しそうにゲームに参加していました。最後の絵本の読み聞かせでも、前のめりになりながら聞いてくれて、もう一回読むようお願いされました。また、かるたは私たちが帰った後も楽しんでもらえるように、各児童館に2セットずつプレゼントしました。

英語教室の内容を決めるときは、英語を習っている子どもも習っていない子どももみんなが飽きずに楽しく英語と触れ合ってもらおうことや、ゲームで使う安全で丈夫な道具作りの工夫について考えることがとても難しかったです。しかし、英語教室をしている間は子どもたちが積極的に英語を話そうとする姿が見られましたし、英語教室後には開催した児童館の方から「教室後もかるたを使って遊んでいます」と報告をいただき、とてもうれしかったです。今回の英語教室で少しでも英語に興味を持ってきていたらうれしいですし、私にとってもとても良い経験となりました。



パソコンボランティアサークル

仁短パソコンボランティアサークル(以下、パソボラ)は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、2ヶ月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

●サークル長:山本清華(生活科学学科 生活情報専攻 2回生)

私は、パソボラ活動の中で3つのことを学びました。1つ目は、他人にものを教えることの大変さです。相手に分かりやすいように、きちんと伝わるように言葉を選んで教えることはとても難しかったです。2つ目は、検定や資格などを取得していても、自分は浅い知識しか持っていないと気づいたことです。私は、授業を通して、ExcelやWordなどのソフトはそれなりに使えるようになったと思っていました。しかし、サークル活動の中で障がい者の方と一緒にソフトの使い方について考えていた時に、自分があまり理解していなかった機能や、うろ覚えだった部分を見つけて、自分の持っている知識やスキルがまだまだ十分でないことに気づきました。3つ目は、障がい者の方への接し方です。普段高齢の方と関わることもなく、どのように接すればいいのかよく分かっていなかったのですが、その人に合わせた声量・動きの早さなどがあり、静かに相手に耳を傾けることが必要だということを学ぶことができました。

●会計担当:山田結花(生活科学学科 生活情報専攻 2回生)

障がい者の方へのパソコン支援を通じて学んだことは、言葉だけの的確なものごとを教えることです。私は目が不自由な方のサポートをしていました。曖昧な指示では教えたい内容が伝わらないため、どこをどう操作するかを的確に伝える必要がありました。また、操作を間違えてしまった際にも、今どうなっているのか、どうして間違えたのか、どうすれば直せるのかをわかりやすく教えることが重要になってきます。これらのことを念頭に置きながら支援を行うことで、「新しいことを覚えられてよかった。ありがとう。」と言われることができました。そして、パソコンに関係のあることでもないことでも積極的に話し、コミュニケーションをたくさんとることで、話しやすい雰囲気づくりを心掛けました。この経験から、相手に何かを伝えたり、教えたりする際には、話しやすい場の雰囲気づくりと、的確な指示を大事にしていこうと思いました。

写真サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 青池 亜依

29年度の写真サークルでは様々な活動を行いました。まず、6月に福井市総合ボランティアセンター主催のボランティアアカデミー「写真(国体)コース」に参加してきました。平成30年度にはいよいよ福井で国体が開催されますが、福井市ではこのような情報記録に関するボランティアも募集しているということで、記録の仕方を現役の新聞記者・カメラマンの方から学ぶという講座です。

通常、写真やカメラの講座というと、技術的な部分や芸術的な部分に目が行きがちですが、情報をしっかりと記録して伝えることに主眼を置いた写真の撮り方、新聞記事等で必要な写真の撮り方のノウハウ等を学ぶことができました。伝わる写真にするためには、いつ、どこで、誰が、どのように、といった要素も重要で、事前の準備なども必要です。インターネットやSNSなどでも写真が重要になってきている今、改めて写真の撮り方の重要性を感じました。

次に、10月の大学祭、1月にはJR福井駅前で展覧会を開催しました。特に、駅前のふくいまちなかサポートセンター「ふく+」では、1月13日から21日までの9日間、多くの方々にお越し頂きました。皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。(文責:顧問 澤崎敏文)



折り紙サークル

幼児教育学科 2回生 サークル長 岩本 栞奈

私たちはがんの子どもたちのために、少しでも四季を身近に感じてもらえるように壁面を毎月作っています。外に出る機会が少ない子どもたちの心の支えになってほしいと思いながら活動しています。折り紙サークルの特徴として、壁面に折り紙をいれることにしています。誰でも真似できるような、簡単な折り紙です。時にはデカルコマニーなどもやってみたりしています。折り紙サークルは、昼休みに集まって活動しています。お昼ご飯を一緒に食べながら、実習の話や就職の話、いろんなクラスが集まっているからこそ、いろんな悩みを共有することができる楽しい時間です。



また、壁面づくり以外にボランティアにも参加しています。子どもやお年寄りに折り紙を教えたりもしています。時には、教える立場から教わる立場になることもあるんですよ。お互いが学び、教え、高まり合っています。サークルで築いた絆は、就職してからも繋がっていくと思います。折り紙サークルの経験は、社会に出てからも役立つとても素敵なものです。折り紙の知識だけでなく、人としても成長できる素敵なサークルだと思います。



ボランティアサークル

幼児教育学科 2回生 仲谷 悠里

①ボランティアサークルでは、坂井市三国図書館で、絵本を読んだり、遊びを提供するなどの活動を行いました。遊びでは、季節の行事（七夕、ひな祭りなど）に合わせた折り紙や製作を行いました。未就学園児だけではなく、小学生や保護者の方々も楽しむことができるよう、絵本を読んでその絵本に関するクイズを出したり、絵本に出てきた動物の真似をしたりと、部員一人ひとりが工夫しながら活動を行いました。

②図書館でのボランティア活動を通して、自分が思っていたより絵本に興味を持つ子どもが多いということに気がきました。保護者の方々も一緒になって真剣に絵本を読んでくださり、「楽しかったね」と親子で言葉を交わす姿も見られ、充実した活動になったと感じています。

③今までの活動の中で私が一番心に残った活動は、七夕の日に笹の飾りつけを楽しんでもらうという活動です。私自身、今まで図書館では読み聞かせしか行ったことがなかったので、学生のみで一から企画できるのかと不安な部分もありました。実習で体験した幼稚園や保育所での設定保育では、自分が担当する年齢が決まっているので、年齢に合わせて活動を考えるのですが、図書館での活動は年齢の幅が広いので、どのような年齢でも楽しめるよう考えるのはとても大変でした。しかし、当日は、親子で一緒に飾りづくりを楽しんでいる様子や、一生懸命に飾りつけをしてとてうれしそうに自分の笹を眺めている子どもの姿があり、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができたと思います。

